

2019年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、極付近、オホーツク海、ヨーロッパ西部で正偏差、アリューシャンの南、米国南西部、グリーンランドの南海上、ヨーロッパ南部で負偏差となった。中高緯度では波列パターンが卓越した。200hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流は、アフリカ北部～南アジアにおいて平年の位置と比べて南寄りを流れ、日本付近の偏西風は南寄りを流れた。海面気圧をみると、グリーンランドの南海上では低気圧が発達した。極付近、日本の東海上で正偏差、東アジア北東部付近で負偏差となった。850hPa 気温をみると、オホーツク海～北日本付近、カスピ海付近で高温偏差、米国南西部～グリーンランドの南海上、ヨーロッパ南部、東アジア西部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、日付変更線の西～カリブ海、北大西洋東部～アフリカ西部で活発、北インド洋～ニューギニア島の北、南インド洋中部～東部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インドネシア付近～アフリカ付近を東進した。対流圏上層では、アラビア半島付近、南インド洋熱帯域で低気圧性循環偏差、中国南東部～北太平洋熱帯域の広い範囲で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、西～中部太平洋熱帯域で南北半球対の低気圧性循環偏差、インド洋熱帯域で南北半球対の高気圧性循環偏差となった。海面気圧は、赤道域ではインド洋～太平洋で正偏差、大西洋で負偏差となった。南方振動指数は-0.7だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.33°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、5番目に高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.73°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

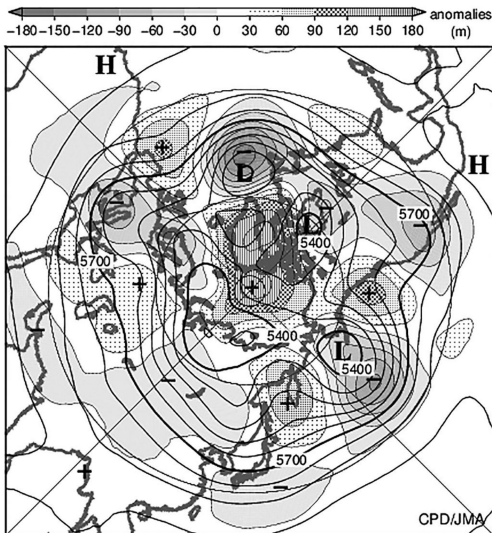
- 東アジア東部及びその周辺、ミクロネシア東部～東南アジア中部、東南アジア北西部及びその周辺、中東西部及びその周辺、モーリシャス～コモロ、南アフリカ、米国南東部～メキシコ南部、ブラジル東部～南部で異常高温となった。
- モンゴル西部～中国中部、ヨーロッパ中部～北アフリカ北部、米国中西部～西部で異常低温となった。
- 東シベリア南部、ヨーロッパ東部、ヨーロッパ中部～北アフリカ北部、米国中西部～西部で異常多雨となった。
- 英国南西部～スペイン南部、カナダ南西部及びその周辺で異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

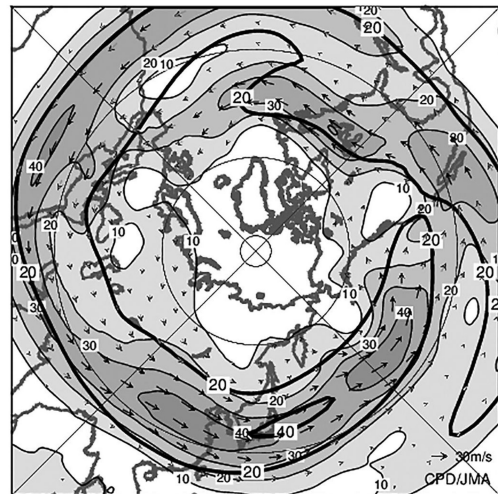
「気候系監視速報」をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



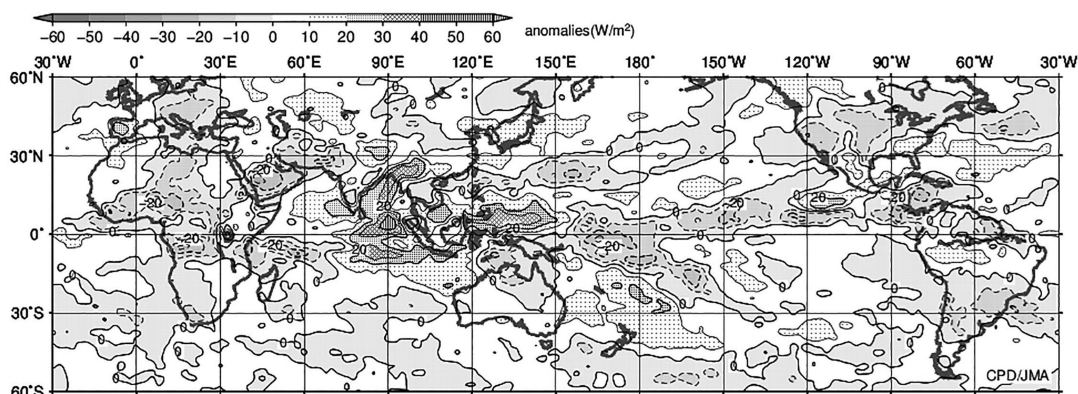
2019年5月の北半球月平均500hPa高度及び平年偏差

等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。



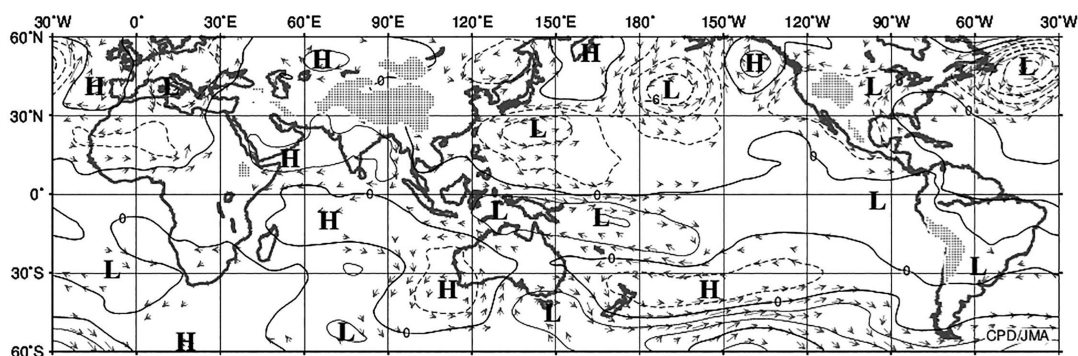
2019年5月の北半球月平均200hPa風速及び風ベクトル

等値線間隔は10m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は20m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



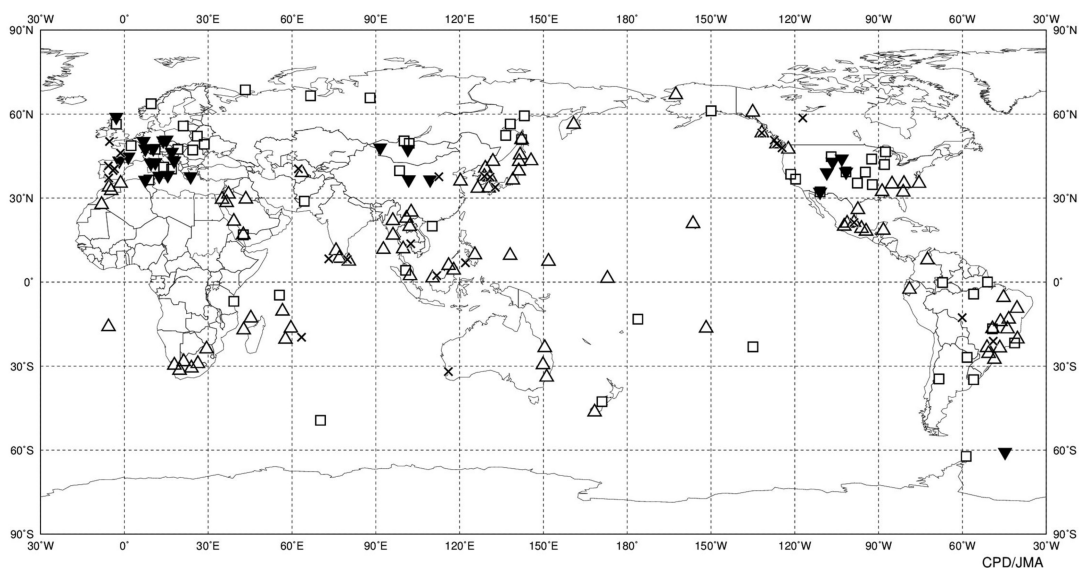
2019年5月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁(NOAA)より提供されたデータを用いて作成。平年値は1981~2010年の平均値。



2019年5月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年の平均値。



2019年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。